

平成22年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名 [京丹後市立峰山幼稚園]

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
<ul style="list-style-type: none"> 主体的に活動し、健康な心と体で生きる力をもった幼児の育成を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> 挨拶等が定着しつつあり、話を聞く態度も向上した。 運動遊びや戸外活動を意図的に取り組み、戸外活動や運動を好み主体的に活動する姿が見られた。 言葉によるコミュニケーション能力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶運動の徹底と、言葉によるコミュニケーション能力の向上を目指す。 自己発揮と協同性の育成を目指す。 自然体験の充実で、逞しく心豊かな子どもを育てる。
評価項目	重点項目	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程	○言語力向上の取組推進 「言葉で握手 育てよう 言葉の力」 <ul style="list-style-type: none"> 人の話をしっかり聞きくとともに、自分の思いを言葉で表現する力を身につける。 絵本や物語に親しみ、想像する楽しさを味わう。 	○挨拶の奨励を徹底して行う。 <ul style="list-style-type: none"> 毎月、合言葉を決めて家庭と連携 ○自分の思いを言葉で表現する。 <ul style="list-style-type: none"> 感動体験の機会設定 話し合いや発表の機会設定(クラスや全体) ○話をしっかりと聞く。 <ul style="list-style-type: none"> 目と目を合わせて ○絵本や物語に親しむ機会を多くもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 家庭での読み聞かせ(絵本の貸し出し) 「ノーテレビデー」の取組 	○朝の挨拶は定着し、友達同士や異年齢でも大きな声で挨拶を交わせるようになった。 ○クラスや全園児で、話し合いや発表の機会をもったことにより、言葉による表現力や発表力が、向上してきている。 ○具体的な内容を合言葉としたことで、話を聞く態度や集中時間、理解力等が明らかに向上した。 ○ノーテレビデーや幼稚園での保護者の絵本読み聞かせ等の取組により、家庭での絵本の読み聞かせが活発になり、親子のふれあいのきっかけ作りが出来つつある。 △挨拶やノーテレビデーは、家庭により差が大きいので家庭への啓発が必要である。
	○自然体験の充実推進 「泥んこ太陽は友達」 <ul style="list-style-type: none"> 様々な自然体験を通し、豊かな感性と知的好奇心、運動能力や体力の向上を目指す。 戸外で主体的に遊ぶ力を育て、遊びを学びにつなげる。 	○米や野菜の栽培を行い、食育を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> 種からの野菜や花作り 親子での栽培や収穫体験 クッキング活動 ○自然の中での体験や遊びの機会を多く設定する。 <ul style="list-style-type: none"> 園外活動(森の幼稚園) 園庭、山の運動場での遊び はだしや泥んこ保育 ○合鴨や孔雀の飼育活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 当番活動 ○基本的生活習慣の確立に向けた指導を行う。	○園庭の環境を十分活用した事や、森の幼稚園活動により、自然に対する興味関心、探究心等が強まり、体力持久力の向上も図れた。 ○米作りや野菜作りは、保護者の作業もあった為、保護者の働きかけも強くあり、偏食解消に役立った。達成感を共有し、偏食解消にも役立った。 ○合鴨の死や孔雀の誕生などを体験し、命のもつ意味について、幼児なりに深くとらえる事が出来つつある。 △飼育当番活動は、今後ともアレルギー児や清潔、安全に十分配慮しながら継続していきたい。

	<p>○自己の発揮と他者とのかかわりを通し協同性の育成 「ふれあい・つながり ・ささえあい」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感を育て、主体的に活動する力をつける。 人間関係を深め、友達と協同して遊びや活動をし、学びあいが出来る力を育てる。 他者とかかわる際に味わう感情や体験を大切にし、育ちにつなげる。 コミュニケーション力や規範意識など様々な力を総合的に育む。 異年齢保育を推進し、他者を思いやる心を育てる。 	<p>○多様な他者との出会いと、交流の機会を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の見学や訪問 (クリーンセンター、エコエネルギーセンター、高齢者施設、) 行事や取組に関わった交流 (地域婦人会・ローターアクトクラブ・よさこい踊りチーム、高校と中学のプラスバンド部、中学生職場体験他) 体験活動 (ハーブ園・林檎狩り・宿泊保育・森林作業・米作り・体操教室 陶芸教室、芋ほり他) <p>○幼児が主体者となる遊びや生活の充実に向けて、環境設定の工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎朝、自由な遊び(登園後) 子どもたちの意見も取り入れた体験活動や行事 <p>○集団生活ならではの経験や、友達と取り組む醍醐味が味わえる活動を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 飛天、運動会、ジュニア文化祭出演 異年齢保育を日常的に実施 	<p>○多くの多様な他者と接する機会を設けることが、コミュニケーション力や、自己の発揮につながる基礎の力となった。</p> <p>○日常的な異年齢交流で互いに刺激しあい、思いやる姿が多く見られるようになってきた。</p> <p>○主体的に遊ぶ場と時間を設けることで、遊ぶ力が育つとともに、友達同士のぶつかりあいなどによる葛藤体験をさせることが出来た。</p> <p>○行事等、子どもたちと話し合いながら進めた事により、園全体で目標に向かう機運が高まり、大きな達成感が得られ、個々の子どもの自信にもつながった。</p> <p>○教師が情報を共有しながら、個々の子どもの頑張りや成長を、保護者や本人に具体的に伝える事を心がけた事は、子どもの自信や、保護者との信頼関係を作ることもつながった。</p> <p>△体験活動の設定が増えると、子どもたちが自由に活動する時間が少なくなる傾向があるので、幼児の主体的活動や協同活動を入れる等、工夫を行っていきたい。</p>
<p>子育て支援</p>	<p>○家庭地域との連携と子育て支援</p> <p>○家庭の教育力の向上 「親も子も育ちあう 幼稚園」</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育ての基地として、保護者や地域から愛され、信頼される幼稚園を目指す。 	<p>○地域の子育て基地としての、役割を果たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「幼稚園開放」(毎月1回) 「子育て相談日」(毎月1回) <p>○家庭の教育力向上に向け支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者同士の交流の機会 「園長とおしゃべり会」(毎月1回) 子育てに関する情報提供 研修機会の提供 	<p>○幼稚園開放は、地域の幼稚園理解につながり、園児にとっても未就園児等と交流する機会となった。</p> <p>○気になる子供について「園長とおしゃべり会」を利用し、保健師と連携して行う等工夫して実施し、保護者の不安解消や子ども理解に役立った。</p> <p>○PTA とも連携した行事や奉仕活動、学習の機会を多く設定したことが、保護者同士の交流や情報交換、子ども理解につながった。</p>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 言語力向上の取組を今後も推進し、言葉によるコミュニケーション力をより高める。 幼稚園での指導や取組の様子等を、保護者に知らせる手立てとして、保育参観や園便りを更に活用する。 協同して遊びを生み出す子どもを育てるために、自己の発揮から人間関係を深めるための事例研究や研修等を行い、取組に反映する。 家庭や地域との連携を更に推進し、子育ての基地となるような幼稚園作りを行う。 		

平成22年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名 [京丹後市立網野幼稚園]

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児自らが環境に意欲的に関わり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 ・自分の思いや考えを表現したり、行動できる力を養う。 ・幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を養う。 ・常に園内外の安全指導・安全対策に留意する。 ・地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○教育計画と具体的な子どもの姿を見せることで保護者の理解を得られ、信頼へと繋がった。 ○様々な体を使う活動を、種類・空間・時間を準備して取ることが楽しくなるような確かな活動になった。 ○理解できる語彙数が増加し、自ら相手に分かるように話そうとする子どもが多くなった。 ○園開放を毎月行い、入園前の親子が安心して参加できるようになってきた。 △予算も人手もなく、負担が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 信頼を基盤に活力ある園作りをする。 (2) 新教育要領に基づく指導方針を2年目視点で見直し、遊びを通した総合的な指導と、多様な体験によって幼児の豊かな人間性の育成に努める。 (3) 基礎基本の力をしっかり身につけることを重点において「どきどきわくわくきらっ～一人一人がかがやいて～」をテーマに教師の専門性の向上の深化を図るとともに様々な研修を行う。 (4) 家庭との効果的な連携に努める。
評価項目	重点項目	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程	(1) 信頼を基盤に活力ある園作りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ①本園の教育活動の全体を職員とPTAをはじめとする関係者で共通理解を深めるため、【網野幼稚園の教育】を作成する。 ②子ども達(PTAを含む)の活動を、機会を捉え映像等を使って具体的に報告する。 ③個人懇談会やクラス懇談会を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○【網野幼稚園の教育】(小冊子)を、PTAに配布して細かな部分でも理解を図った。 ○1・3学期の終わりに懇談会を設定し、活動の様子をスライドで伝え、理解を深めることが信頼や協力の強化に繋がった。 △より細かな情報を持って保護者と対応する。
	(2) 遊びを通した総合的な指導と、多様な体験を基本に幼児の豊かな人間性の育成に努める。 ①自分の思いや考え、困ったこと等を自分の言葉で伝える。 ②体をいっぱい使って遊ぶ。 ③協同の体験を積む。	<ul style="list-style-type: none"> ①話す・聞く(聴く)・コミュニケーションの力を身につける。読み聞かせ、当番活動、話し合いの進行、舞台・生活発表順番や生活に必要な言葉などにこだわった指導 ②幼児自らが選んで遊ぶよう、取り組み・関わり・時間の調整キッズサッカー、朝マラソン、リズム運動、戸外遊びなど ③相手の思いを知り、一緒に活動することの心地よさやルールを学ぶ。園内外の人とのふれあい・交流、クラス・異年齢での取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○3学期になって『言葉のやり取りの面白さ』に気づく年長児が多くなり、伝えることを実感できるようになってきた。 △返事を返せない幼児もいる。言葉に気付ける指導を継続している。 ○体を使った遊びを継続することで、身体を動かすことが好きになった幼児が多くなった。入園当初のひ弱さがなくなった。 ○協同活動の経験から自分の思いを伝えながら友だちの思いを知ったり、ルールを学んだりしてきた。

	<p>(3) 基礎基本の力をしっかりと身につけることに重点をおき、教師の専門性を生かした研修を充実する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の発達や指導方法について園内研修を行う。 発達・リズム運動・エピソード研修 ・ 家庭では経験できない活動や人々との交流、親子体験を通して楽しさややりきろうとする気持ちを養う。 高齢者大学との交流・お泊り会・町内5歳児交流会・丹後園訪問・各種学校との交流 	<p>○担任・講師・サポーターが同じ理解を持って指導に当たれるように、発達やリズム運動を重点的に研修した。誰もが育ちを見守れる園態勢作りの柱にできた。</p> <p>△園としての方向性をしっかり根付かせるために、もっとチームワークを培う必要がある。</p>
	<p>・ 家庭との効果的な連携に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活や教育の指導・啓蒙をする。(各種たより) ・ P T A活動を通じ、子育てに興味関心・楽しさを感じてもらう。 	<p>○母親委員会を中心とする女性部員の協力体制が進み、自主的に様々な活動への準備などに当たってもらった。(ママのおしゃべり会の発展)</p>
子育て支援	<p>・ 園開放により、就園前の親子での保育参加を行い、子育ての安定を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月、園開放『なかよしスクール』を開催する。 ・ 在園児との交流、自由な遊びの時間、行事への参加、試食会などを企画する。 ・ 学校ボランティアの協力で、人員の確保をする。 	<p>○毎回10組前後の参加があるようになり、安心して参加できる場所になった。各クラスも柔軟に対応し、いつでも受け入れる体制をとった。</p> <p>△ボランティアだけに頼らず、人手の確保が必要である。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間をかけてしっかり取り組むべき時と限られた時間でやりきる時のメリハリのある保育を目指す。近未来と少し遠い未来とを早くから見通す力や学習が必要。 ・ 来年度22人という今までになく多い5歳児進級組の2年目の積み上げを進めたい。 ・ 子どもの精神的な発達と身体的な発達との相関性について学ぶとともに、保育への取り入れ方を工夫していく。 		

平成22年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立丹後幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
生き生きと遊び心豊かでたくましい子の育成 ・全職員が保護者や地域の人と協力合って心豊かでたくましく優しさがあふれ意欲的に遊びを作りだす子を育成する。		1 異年齢児の交流は機会を重ねるごとに豊かなかかわりが持ててきたので、さらにつなげ、育てる。 2 こども園の運営と幼児教育活動の理解をさらに進めるため、ボランティアを募ったり、地域へ通信を配信する。	1 異年齢児の交流で、人と人とのつながり等、連携を通していたわりや優しさ思いやりの心を育む心豊かな経験を行う。 2 一体化施設の活用、長所の探求
評価項目	重点項目	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程	1 異年齢の交流を通して、心豊かな子を育てる。 (1)思いやりの心を育む ア年少者に対するやさしさや責任感を育てる。 イ年少者は、優しく支えてもらうことにより、憧れ、学び、育ちあう。 (2)言葉力の向上 ア聞く力や話す力を意識して計画的に進める中で、自分の思いが言葉で表現できるようにする。 (3)保幼小連携の強化 ア幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目標とする	1 異年齢交流の取組 (1)交流の時間を週2回以上持ち、つながりを深め、育ちあう。 ア日常保育の中で仲良し散歩・会食・遊びの交流をする。 イ行事の中で異年齢児とのかかわりを進める。 (運動会・誕生会・発表会・遠足・お遊びパラダイス・お店ごっこ・オリエンテーリング) (2)言葉力を育てる取組 ア毎日の園生活の中で、友達の話の聞いたり話をする機会を作り、言葉力を育てる。 イ大勢の人に読み聞かせをしていただく。絵本貸し出しを行うなど、絵本に触れる機会を持ち、楽しみながら表現活動に繋げ、言葉力を育てる。 (3)学校との連携 アもうすぐ1年生「体験入学推進授業」を間人小学校(豊栄小学校)と連携して取り組む。 イ授業や行事の見学・授業体験をする。 ウ職員の連携を行う。(事前打ち合わせと反省) エ間人中学校の畑を借りる。(収穫野菜を介して)	○昨年度から継続して取り組んでいるので、小さい子に優しくリードしてスムーズに関わることができた。異年齢児とのかかわりを意識して計画することで、より責任感や協力し合う姿が育ってきた。 ○色々な人に読み聞かせていただき、話を聞くことの楽しさ、大切さを繰り返し伝えていくことで、集中して聞く力が育ってきた。 ○1年生に優しく関わってもらったので、今まで以上に年少児に優しく関わるようになった。 ○学校への憧れの気持ちと、学校生活の雰囲気を感じ取り、生活の中で目標とし、意識して動こうとする子が増えてきた。 △小学校職員と事前打ち合わせや評価反省の時間が持ちにくかった。
	2 家庭との連携に努める (1)保護者との信頼関係を築き、相互理解を図る。 (2)生活習慣の確立	2 家庭との連携 (1)「ママのおしゃべり会」の活動 グループ・個人での交流や懇談 (子どもとの関わり方、読み聞かせ学習会、親子菜園活動、子育て講演会、) (2)基本的な生活習慣の獲得 生活点検表の取組(幼稚園・保育所児とともに家庭で取り組み、クラス全体で成果等話し合う。) (3)生活の様子の情報発信 園・クラス通信、懇談会	○交流では、家庭の役割について話し合ったり、読み聞かせを体験したりすることで、図書館を利用した絵本選びが盛んになり、家庭においても読み聞かせが定着してきている。 ○生活点検を進めるにあたり、職員間の話し合いを密に行うことで、取り組みがよく浸透し、子ども達一人一人を把握し、取り組むことができた。 △幼稚園の人数が少なく集まっても「仲良し会」で終わってしまう傾向にある。

	<p>3 職員の資質向上と連携</p> <p>(1) 保育教育の専門家としての使命と責任、自己研鑽</p> <p>(2) 幼保一体化施設のスムーズな運営</p>	<p>(1) 研究会に積極的参加するとともに、園内研修として報告会を実施し、職員全員の共通理解につなげる。</p> <p>(2) 園の公開保育を行い、保育所職員も合わせて、保育の方法・子どもの姿の捉え方・支援指導の方法を学びあう。</p>	<p>○研修の機会が増え職員の資質向上に繋がった。</p> <p>△会議を持つ時間、確認事項等改善されてきているが、初任者・10 年研修受講が重なり、なかなか研修時間が取れなかった。</p>
	<p>4 地域との連携</p> <p>(1) 地域の人と触れあい関心を持ち、故郷のすばらしさに気づき愛着を深める。</p> <p>(2) 人とのさまざまな体験を通して、生活を豊かにする。</p> <p>(3) 園の様子を地域に知らせ、園に関心を持ち、支援をしていただく。</p>	<p>(1) 挨拶の奨励 ア機会を見つけて職員が挨拶の大切さをみんなに伝え挨拶が広がるようにする。 イ「挨拶ホルダー」を作り、鞆に付けて意識させる。 ウ年長児が、挨拶ポスターを作る。 (園・家庭・地域でも挨拶運動を広げる。)</p> <p>(2) ボランティアの協力依頼 合鴨放鳥、花・夏野菜の苗の移植、絵本の読み聞かせ和太鼓演奏、節分鬼</p> <p>(3) 通信の配信 家庭や地域に園の活動の様子を通信で知らせ、地域の子どもとして育てていただく。</p>	<p>○便りを家庭や地域に配信していくことで、園への関心が高まった。また、ボランティア等で協力していただき、地域の方に大切にされている実感を持つことができた。</p> <p>○園全体で挨拶ポスターやホルダーの取組を行うことにより、子どもたちの意識が高まり、自分から挨拶をする姿を多く目にし、一定の成果を見ることができた。</p> <p>△挨拶について取組を進めたが、地域や大人にまで広げることができにくかった。</p>
<p>子育て支援</p>	<p>1 未就園児保護者のコミュニケーションの場所を作り、子育ての安定を図る。</p>	<p>(1) 子育て支援センターや園開放で、未就園児、保護者との交流を行う。</p> <p>(2) 園庭開放、園開放を交互に隔週で行う。(金曜日)</p>	<p>○支援センター利用者と園児の交流を計画的に行うことで集団のなかでの育ちを提供できた。</p>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>1 異年齢との交流 交流時間をたっぷり持つことで、自ら異年齢交流を行い、遊びを進めていけるような力をつける。</p> <p>2 家庭との連携 「ママのおしゃべり会」では幼稚園の人数が少なく活動が広がらないので、保育所にも呼びかけ、こども園としての活動を模索する。</p> <p>3 地域との連携 挨拶について保護者も交えて取り組む。</p> <p>4 言葉力の向上 絵本の読み聞かせを引き続き行い、言葉遊びや自分の思いや考えを話す活動を進め、楽しみながら言葉力を育てる。</p> <p>5 学校との連携 (1) もうすぐ1年生「体験入学推進事業」を昨年に引き続き取り組む。 (2) 職員合同研修の機会を持ち、子どもの様子等を話し合いスムーズに接続していく。</p>		